



青野由利

原発と核兵器の深い関係

拡散派の声が届いていない」と分析する。

処理したプルトニウム約48トが宙に浮いている。

そこへ今月、原子力規制

委員会がもんじゅの運営主体に事実上の最後通牒を突きつけた。もんじゅそのものが宙に浮けば、改めて

青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場の問題が浮き彫りになる。これを動かせば

使う当てのないプルトニウムが年間8トずつ上乗せされていくからだ。

「原発から出る原子炉級のプルトニウムが核兵器に利用できるか」と思っているのは誤解だ。今月、東京で開かれたシンポジウム「原発と

核」で、米ローレンスリバモア国立研究所のブルース

・グッドウィンさんは指摘した。核兵器開発に携わった専門家でも「兵器級でなくとも核兵器は作れる」と断言する。

元米国防総省核不拡散政策副長官のヘンリー・ソコルスキーさんは、日本の再処理が韓国や中国に影響する可能性に触れ「大量のプルトニウムが東アジアに蓄積すれば何らかの挑発が起きた場合に使用されるかもしれない」と懸念を表明した。元ホワイトハウス科学技術政策局国家安全保障担当次官のフランク・フォン・ヒツペルさんは、再処理が経済

面でも見合わないことを強調。元米原子力規制委員会委員のビクター・ギリンズキーさんは、再処理が廃棄物処分に関与するとの考えに「まったく逆」と反論した。

興味深いのは、米政府の要職にあった人々が口をそろえて日本の再処理に反対している点だ。日本では「原子力政策は米国の意図に沿ったもの」との見方が強いが、シンポジウムを主催した民間シンクタンク「新外交イニシアティブ」事務局長で弁護士猿田佐世さんは「日本には核不拡散にさほど関心がない知日派の声ばかりが拡大されて伝えられ、大きな勢力である核不

ただ、状況は変わりつつあるかもしれない。ソコルスキーさんら14人の元政府

高官は9月、米国内の余剰プルトニウムを原発燃料に加工する計画の中止を米エネルギー省長官に書簡で訴えた。日本の再処理延期も

後押しできると述べ、知日派で知られるジョセフ・ナイさんも名を連ねている。猿田さんは「日本では原発と核兵器が別々に論じられているが、英語では同じ『核』と指摘する。日本もこの二つを明確に結びつけて考えないと国際情勢を見誤るかもしれない。」

(専門編集委員)
次回12月24日

ここへきて急に外堀が埋まりつつあるように見えるのは気のせいだろうか。日本が抱える余剰プルトニウムの問題である。

原発の使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出し高速増殖炉で使う。それが日本の国策「核燃料サイクル」だった。高速増殖炉の試作品「もんじゅ」はうまくいかず、普通の原発で使うプルトニウムでのいできたが、今はそれも止まったままだ。その結果、日本が主に英仏で再